スイス日本語福音キリスト教会

JEGニュースレター148号

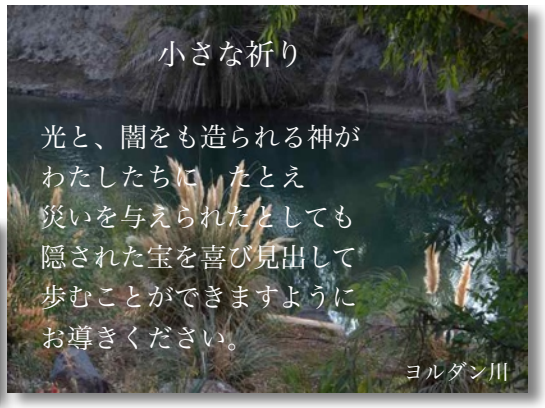
www.jegschweiz.com　　２０１４年１１月２１日発行

"証し礼拝"
聖地旅行団の出発した10月12日（日）スイスJEGでは、信徒によって"証し"礼拝が持たれました。 2P

ミニ修養／お泊まり会
チューリッヒ近郊のトムセン家で、ミュンヘンの若者を交えてミニ修養会／お泊まり会が開かれました。 21-22P

スー先生また会う日まで
女・安部哲とも呼ばれ日本人を愛してこられた韓国人女医スー先生が天に凱旋されました。 18-20P

聖地旅行感想文
この秋、聖書の舞台を訪れ、何を見て、どんな思いが胸に去来したのか参加者に綴って頂きました。 3-17P



主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」
創世記　１２：１－３

スイスJEG創立２０周年記念事業
イスラエル旅行特集

エンゲディのダビデの滝にて。死海の畔に清冽な水がほとばしっている。黙示録の世界そのままに。

1、スイス日本語福音キリスト教会創立20周年記念事業として企画された”スイスJEGイスラエル旅行”は７月に始まったガザ紛争のの長期化を受け実施が危ぶまれましたが、10月12日（日）から19日（日）まで催行されました。イスラエルの歴史と現在に熟知され、現地でお働きになったこともあるマイヤー牧師を団長として、15名の参加者（うちチェコならびにドイツの日本語教会からそれぞれ一名参加）は、旧約と新約の舞台となったイスラエル各地を訪れ、マイヤー牧師からそれぞれの訪問地で聖書との深い関わりを詳しく解説していただきました。

その結果、生きた聖書の世界を立体的かつビジュアルに学ぶ貴重な機会を与えられ、聖書の読み方が一新させられました。スイスJEGのニュースレター11/12月号では、参加者の感想文／証しを特集しましたのでお読みになってください。

また、スイスJEGニュースレター愛読者には聖地旅行のビデオがご覧頂けます。https://www.youtube.com/watch?v=vTiJYFgtraEスナップはスイスJEGのHP聖地旅行のサイトにてご覧ください。http://www.jegschweiz.com/聖地旅行-2014/

旅行団のエルサレム滞在中、現地から偏りのない生のニュース”オリーブ山便り”を2001年から発信されているクリスチャン・ジャーナリストの石堂ゆみ姉が私たちを訪問され、お交わりをいただき、貴重なお話を聴く幸いを得ました。

この”オリーブ山便り”は聖書とイスラエルに関心をもつ多くのスイスJEG会員にも愛読されてきました（配信希望の兄姉は松林まで。週二回ほど、無料）が、ブログでもお読み頂ける様になりました。http://mtolive.blog.fc2.com/　是非、訪れてみて下さい。

2、聖地旅行団が出発した10月12日（日）のスイスJEGは、信徒によって”証し”礼拝が持たれました。イスラエル旅行参加のメンバーの欠席で、こぢんまりとした礼拝となりましたが、大変祝福され、本園姉、クンツ先生、ゲルスタ・ウェンディ宣教師、フォンプランタ兄の証しを聴く幸いに恵まれました。

3、10月26日の日曜礼拝は、マイヤー牧師が長男ヨハネスさんの結婚式のため、ミュンヘン日本語キリスト教会から安藤廣之牧師がお越し下さり御奉仕いただきました。「入院を通じて教えられたこと」をテーマに、自らの二度に渡る網膜剥離手術の体験をもとに、マタイ９章10ー13節から解き明かされました。安藤先生は、今回の聖地旅行にも参加申し込みされていましたが、手術直後の旅行でもあって残念ながら参加を断念されました。手術された眼が一日も早く主に癒され、念願の聖地旅行が実現されますようお祈りします。

4、安藤廣之牧師は翌日の27日（月）にも、ヘス明美姉宅で開かれた家庭集会にも出席され、お証しをしてくださいました。以下はヘス姉のレポートです。

昨日は参加者７名で、安藤廣之先生が「なぜクリスチャンになったのか？どうして牧師になったのか？」という題で証をして下さいました。自分の生い立ちから、ミュンヘン日本語教会で牧師をされる今日までの自分の人生、人や神との出会い、救い、献身への導きなど、これまでの歩みを通して与えられた神の恵み、試練、祝福を力強く語って下さいました。

またその後は参加者と共にざっくばらんな質疑応答やおしゃべり、そして昼食会を共にし、楽しい交わりの時間も与えられて、感謝しております。チューリッヒまで来て下さった安藤先生と、先生を送って下さった主に感謝致します。有難うございました！

5、10月３日から５日まで、チューリッヒ郊外のトムセン家にて、スイスJEGユースグループとミュンヘンの若者達によるミニ修養会／お泊まり会が17名の参加者を得て開かれ、大変祝福されました。その様子の一端は自ら構成した”お泊まり会”レポート（21、22ページ）によってご覧頂けます。

6、マイヤー牧師のご長男のヨハネスさん（IT技師）が、10月25日、シュトゥットガルトにて、ダマリスさんと結婚式を挙げられました。新郎新婦の”願い”は、ともに主イエス・キリストに従い、また、ダマリスさん（九人兄姉の三番目、長女）の育った家庭の様に子沢山に恵まれることだそうです。新しい家庭に神様の祝福と導きが豊かにありますようお祈りします。

7、韓国人医師スー・スパンフォート先生が11月５日に召天されました。スー先生は、医師としてアフリカで医療活動に従事されるとともに、日本人を愛し、28年の長きに渡ってスウェーデンの日本人集会を導いておられました。ご遺族の上に主の深い慰めがありますようお祈りしています。18–20ページに、スー先生を慕う欧州の兄姉よりの寄稿文を掲載いたしました。

8、フランクフルト日本語教会の修養会が11月14日から16日まで南ドイツのHaus Bethelで、「キリストにとどまる-ヨハネ15ー16章から」をテーマに矢吹博牧師（埼玉・行田カペナント教会）をお招きして開催され、大変祝福されました。スイスJEGからも九名参加し、ともに恵みに与りました。

9、来年４月９日から12日までイタリア・ベルガモ近郊で開かれるSLIM15の第一信が届きました。SLIM15では、ハーベスト・タイム・ミニストリーから中川健一牧師を招き、御言葉とバイブルスタディ中心に聖書から神様に仕えることを学び、サーバント・リーダーの育成を目指します。HP:SLIM CONFERENCE

10、オーニンガー宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、マルティン裕子宣教師からのRundbrief 、工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、パリ教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご一報下さい。

テルアビブの日の出　13.Oct.2014

達成された二つの目標

マルチン・マイヤー

スイス日本語福音キリスト教会20周年記念に当たり、約１年前からこの聖地旅行を祈りのうちに計画してまいりました。私達の喜びと期待は、７月から始まったガザ紛争によって、今回の旅行は無理だろうというほとんど諦めになりました。しかし、この紛争は私達の旅行日程前に終了となり、計画通りに行けるようになったことは、私にとって何よりも嬉しいことでした。まるで夢が叶ったようでした。

牧師として私は、この旅行に二つの目標を抱いておりました。一つは、旅行参加者のうちに、イスラエルの国と、神に選ばれた民族であるイスラエル人に対する尊敬と愛が得られるようにという願いでした。二つ目は、参加者が聖書に出て来る場所に行くことによって、聖書をもっと現実的に読んでくれるようになれば、という願いでした。

スイスJEG聖地旅行団：ヨルダン川にて

Karmel カルメル山にて

旅行中に見学したすべての場所において、なるべく聖書を開きながら、当時の歴史や、聖書の内容に関する説明が十分であるように努めました。　エルサレム最後の夜、ホテルでの感想会で皆様から聴いた証には、この二つの目標がちゃんと果たされていたようで、非常な喜びを感じました。感謝でいっぱいです。

限られた時間の中で見ることができなかった大事な場所がまだたくさんあります。そんな訳で、私はもう次回の聖地旅行をとても楽しみにしております。

エルサレム；園の墓にてメッセージ

ZIELSETZUNG ERREICHT

Martin Mayer

Garizim ガリジム山にて

Anlässlich des 20-jährigen Jubiläums unserer "Japanischen Evangelischen Gemeinde Schweiz" hatten wir seit etwa einem Jahr unter Gebet die Studienreise nach Israel geplant. Unsere Vorfreude und Erwartung wurde jedoch durch den seit Juli anhaltenden Gaza-Konflikt getrübt; zwischendurch fanden wir uns fast schon damit ab, dass die Reise diesmal wohl nicht möglich werden könnte. Aber rechtzeitig vor unserem Reisetermin kam der Konflikt zum Ende. Für mich war das ein großer Grund zur Freude, wie wenn ein Traum in Erfüllung ging. Als Pastor hatte ich im Blick auf diese Studienreise zwei Ziele im Auge. Zum einen wünschte ich mir, dass die Reiseteilnehmer eine Ehrfurcht und Liebe zum Land Israel und dem von Gott erwählten Volk Israel bekommen sollten. Zum anderen, dass die Teilnehmer durch die Begegnungen mit den Orten der Bibel zu einem realistischeren Bibellesen herangeführt werden sollten. An all den Orten, die wir auf unserer Reise besuchten, schlugen wir die Bibel auf und versuchten, den jeweiligen geschichtlichen und biblischen Bezug herzustellen. Beim letzten Zeugnisabend im Hotel in Jerusalem konnte ich dann aus den Zeugnissen der Teilnehmer entnehmen, dass gerade diese beiden Ziele erreicht worden waren; das war für mich die größte Freude und erfüllt mich mit Dank!

Olive カペナウムにて

Wegen der Kürze der Zeit konnten wir natürlich nicht alle wichtigen Orte in Israel besuchen. Deshalb freue ich mich jetzt schon auf die nächste Reise.

エルサレム　オリーブ山からの眺望

時空を超えた旅

脇山斉

主の御名を心から賛美致します。テルアビブの空港に着きホテルで一泊した後、イスラエル旅行がこれから一週間もあると思っていたのに、今思えばあっという間に終わってしまった感じです。

印象に残っているところとして、次のようなものがあります。ハイファから見た地中海をバックにしての壮大な景色、カルメル山で剣を振り上げたエリシャ、ハルマゲドンの舞台の小さなこと、Maalot　の施設に入ってらした方々の複雑な心境、ガリラヤ湖での揚げたての魚、イエス様が育たれたナザレ、ガリラヤからエルサレムへ行くB　地区であるヨルダン西岸地区の荒れ果てた土地、死海で足を取られそうになり、幸い口に入らず味見が出来なかった塩水．．．あの時にしておけば良かったなあと今は思えること、安全のため装甲車に乗り換えての移動だと聞き、みんなが期待していたら見た目は普通のバスだったこと。戦車とまではいわずとも、ちょっと違ったものを思っていたので残念でした。

エルサレムの人や車の多さ、あれでも少なかったようですが．．．。イエス様が十字架を背負い歩かれたVia　Dolorosa、オリーブ山からのエルサレムの全景、嘆きの壁、そこで旅慣れた方の失跡、などなど。これらを通して時空を超えた旅を感じさせていただき、イエス様の通られた道の数々を実際経験できたことは、本当にありがたかったです。

Heifa ：ハイファの街と地中海をバックに

ガイドの恵美子さんの案内といい、運転手のアブラハムさんの心遣いも素晴らしかったです。もちろん、団長のマイヤー牧師にも感謝致します。

これがナツメヤシの目、いや実です。

イスラエルに初めて行かれた方は、もう行かなくていいか、また行きたいかに分かれるそうですが、私は後者になりますね。次回のイスラエルを心待ちにして。シャローム！

שָׁלוֹם

私ってなんて幸せなんだろう

脇山多恵子

イエス様が歩まれた地を自分の目で見るということにずっと憧れていましたが、身体障がい者の私にとってはかなり厳しい道であり半分以上、夢とあきらめていたところ、スイス教会創立20周年記念に聖地に行くという計画が生まれ、私のことを知っていてくださる方達と一緒だったら、行かれるのではないかと希望を持つことができました。

私が行くことは他の方達にとっては足手まといであり、迷惑をかけることは承知の上での参加でしたが、私のことをすべてご存知の主は私に心から甘えることのできる最高のメンバーを与えてくださって、旅行の前から不安や心配という重荷をすべて取り去ってくださいました。

後は体調が守られ骨折しないようにと祈りつつ、待ちに待ったイスラエル旅行が始まり、あっという間に終わって、今振り返ってみると本当にすべてが夢の中での出来事だったのではないかと思うほど実感がありません。

この旅行は初めから終わりまで、人の優しさに触れ、神様の愛をたくさん感じることのできたものでした。どこへ行っても、私を気づかい声をかけてくれたり、手を差し伸べてくれたり、神様が私のすべてを取り囲み、守ってくださっていることを兄弟姉妹の思いやりを通して知ることができました。本当に毎日、至れり尽くせりの愛に包まれて過ごさせて頂き、”私はなんて幸せなんだろう。”と何度も主に感謝しました。

最後にはイスラエルから去ることがとても辛く、このまま終わらなければいいのにと思ってしまうほどでした。お世話になったガイドさんや運転手さんとも、もう会えないのだと思うととても淋しくなってしまうほど、親切な方々を主は用意してくださいました。

本当に私達の神様は恵みに満ち溢れたすごいお方です。神様、最高のプレゼントを与えてくださってありがとうございました。心から感謝し、あなたのお名前をほめたたえます。

ヨルダン川

私の信仰の成長は？

クスター節子

ちょうど７０才になる年なので記念にイエスさまの歩かれた地に行けば本当の信仰が芽生えるのではないかと思い、旅行に参加申し込みをしました。

残念ながら信仰はそんなに簡単に成長するものではない事を教えられた旅でした。そんな訳で信仰の成長はあまりなかったですが、兄弟姉妹達との心温まる８日間、マイヤー先生の優しい言葉遣いで信仰に導かれる宣教の実際を目の当たりする事が出来たのは本当に素晴らしい体験でした。

マアロット・ホロコースト被害者用の老人ホームの責任者Herr　Beyer氏の「言葉での宣教をせず、ただ態度で愛をあらわすように」とボランティアの方達に教育されているとの言葉に本当の信仰が何であるかを考えさせられました。

良き羊飼いマイヤー先生をお与えくださった神様に感謝致します。

Malot: 老人ホーム

Nazareth ナザレ・ヴィレッジでは、イエスが生きた2000年前のガリラヤ地方の生活様式が再現されている。

イスラエルの民のため祈りたい

斎藤奈美子

シュトゥットガルト日本語教会

この旅行で私が得たもの、それは、イスラエルの人々の為に祈りたいという思いです。あの７日間をじっくり振り返って思い起こされるのは、様々な場所で出会った人々です。キブツで働いていた方々、老人ホームの無表情なホロコースト生存者のみなさん、黒ずくめの超正統派ユダヤ人たち、そしてベツレヘムの路上で、強引な物売りをしていた強面のパレスチナ人、などなど。言葉を交わすこともなく別れた多くの人たちのことが頻繁に思い出され、彼らの為に祈らなければ、という思いが湧き上がってくるのです。

正直に告白すると、私は、イスラエルには全く興味がありませんでした。一生行くことはないだろうと思っていたぐらいです。ところが、我が家の家庭集会に定期的に来てくださるマイヤー先生からこのイスラエル旅行の企画を聞かされた時、感情や思いを超えて瞬間的に「行きたい！」と声が出ていました。そしてイスラエルを旅している自分の姿が頭に浮かんだのです。不思議な感覚でした。イエス様が、背中を押してくださったのでしょうか。　神様が、どうして今の私にイスラエルの人々のことを祈る思いを与えられたのかは分かりません。でも私の信仰生活に必要なことだと感じるのです。

全てのタイミングを整えてイスラエルに行かせてくださった神様に期待しつつ、これからも歩んでいきたいと思います。最後になりましたが、すばらしい計画を立てて、霊的ガイドもしてくださったマイヤー先生、そして暖かく迎え入れて、親しく楽しい交わりをしてくださったスイス日本語福音キリスト教会の皆さんに、心から感謝致します。思い出深い旅行にご一緒できて、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

カイザリアに2000年前ヘロデ大王が建てたローマ式野外劇場で"Amazing Grace"を賛美するスイスJEGチーム。

カイザリア北の浜辺と地中海

イスラエル聖地旅行記

原憲二

イスラエル聖地旅行。本当に濃厚で、感動的な8日間でした。
私たちは初日、テルアビブからカエザリア、ハイファに向いましたが、車窓から見える街並が想像以上に近代的であるのにまず驚きました。ハイファのテクニオン- イスラエル工科大学は、米国MITに比肩して世界最高峰といわれているそうで、この大学を中心に、ハイファはイスラエルのシリコンバレーとも言われるそうです。高速道路は縦横に整備され、さらに拡張工事があちこちに見られました。エルサレムの市内には、2011年に開通したモダンなトラム：ライトレールが走り、テルアビブ－エルサレム間の高速鉄道も2017年の開業に向けて建設中とのこと。この繁栄ぶりを見ると、やはり約束の地なのだと思わされました。

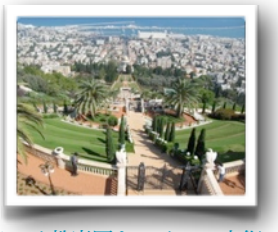
テルアビブから北へ向かう高速道路沿いにあるベットタウン

一方、パレスチナ：アラブ人地区に入ると、格差に驚きました。パレスチナ人地区は、有刺鉄線・電気フェンスそして都市部では、高さ8mのコンクリート分離壁でイスラエルと分離されています。これはパレスチナ側からのテロに対しイスラエル住民を守るために作られたものと言われています。私たちは、ベツレヘムへ行くとき厳重な検問を抜けてコンクリート分離壁の中に入りましたが、いったん、パレスチナ：アラビア人地区に入ると雰囲気は一変。バラガン。「バラガン」とはガイドさんが教えてくれたのですが「ごちゃごちゃ」という意味のヘブライ語。どの家の回りにもごみが散乱し、家屋も壊れかけだったり、建設中といった状態。なぜか廃車同然の中古車に囲まれて、軒先で自動車修理をしている自営業らしき家が目立ちました。この地域はとても一人では歩けないと思いました。

分離壁

パレスチナ地区

イスラエルはパレスチナ問題だけでなく、宗教間の対立問題がまことに複雑。アラブ系キリスト教とアラブ系イスラム教間の対立で殺し合いがあったり、北部で見た村はイスラム第三の宗派と呼ばれるドルーズ派があって、同じドルーズ派でもAとBは互いに結婚が許されていないとか。ハイファではすばらしく美しい庭園を見下ろしましたが、そこはキリスト教についで世界で２番目に布教国の数が多い異端宗教バハイ教の本部でした。



バハイ教庭園とハイファ市街

エルサレム旧市街の東側にはユダヤ人墓地が広がっていますが、その隣にクリスチャン墓地。東壁中央にあるゴールデンゲートの裾にはイスラム墓地が陣取っていました。これは、ユダヤ教にとってメシアが現れたときに通るとされるゴールデンゲートの前で、蘇りのユダヤ人を阻むためとか。これらに加えて隣国ヨルダン、レバノンなどとの国家間の対立。書くだけでも疲れてしまうほど、世界の問題が凝縮されているのがイスラエルと実感しました。この重苦しい面を持ちながらも、イスラエルへの入植者はますます増え、発展し続けていることがうかがえました。

エルサレムと三大宗教の墓地

私たちの2番目の宿泊場所は、ガリラヤ湖南デガニアのキブツ内の施設で、ここは1909年帝政ロシアの迫害を逃れたユダヤ人の一群が入植して共同体を設立したキブツ第一号という、記念すべき場所でした。バスの車窓から、オリーブ、ナツメヤシ、ブドウ等を豊かに実らせている多数のキブツを見ることができました。私たちの３番目の宿泊所はなんとキブツの中にある４星のホテルでした。

一番印象深かったのは、遠くからしか見ませんでしたが、エルサレムの北方約50kmのエロンモーレ（Elon More）の丘の頂に作られたキブツ。一般の人から見れば、ここはパレスチナ地区の

エン・ゲディ国立公園に住む鹿の群れ

エロンモーレの丘に栄えるキブツ

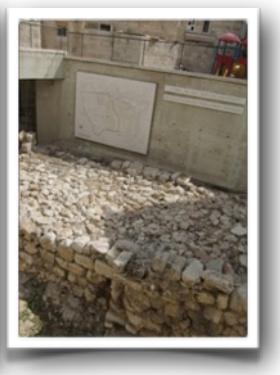
ど真ん中にあり治安も不安定な地域。当初は誰も住もうとはしなかった不便で不毛の地でした。こういう場所にあえて入植するユダヤ人こそ、宗教的なユダヤ人だそうです。それもそのはず、こここそが、アブラハムが最初にカナンの地に入って住み、主がアブラハムに現れ「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」と仰せられた場所（創世記12.7）。そして隣のエバル山、ゲリジム山では、ヨシュアたちイスラエルの人々がモーセの命令どおり、律法の祝福と呪いを宣言した約束の地（ヨシュア8:30-35）。

エロンモーレ（Elon More）の丘の入植者もきっとアブラハム、ヨシュアと同じ信仰でここに足を踏み入れ、開拓生活を決意したに違いありません。私たちは今もサマリア人が住むゲリジム山の頂に立ち、エバル山、エロンモーレの丘、シュケムの町を見渡しました。また、遠くからシェケムの町の中にある、ヨセフの墓、サマリヤの女がイエス様と話したヤコブの井戸の位置を探しました。（ヨハネ4:5-6）。この地域はおそらく当時と大きく変わらない景色なのでしょう。ここにアブラハムが、またヨセフ率いるイスラエルの民が、そしてイエスが歩いたのだと思うと、感慨深いものがありました。

ゲリジム山からの眺望

各聖地に建っている教会や遺跡は、何度も壊され、何度も建て増しされた跡が見受けられました。典型的なのが、エルサレムの神殿跡。地下には、第一神殿およびバビロン捕囚から帰還後に再建した第二神殿跡が埋もれてあり、取りまく石壁は、ヘロデ時代、十字軍時代およびオスマン・トルコ時代と何層にも重ねて積み上げられたもの。また、街全体がいくつもの年代の文化層が重なって丘になっているところを見ました。これを“テル”というのを今回学びました。だからここのガイドさんは本当に説明が大変だと思う。それでも私たちの現地ガイドさん恵美子さんは本当に詳しく、わかりやすく教えてくださいました。恵美子さんの聖書にはいっぱいマークがあって、読みこまれている跡があるのを見て感服しました。道路を知り尽くした、ベテランのバスの運転手アブラハムさんと共に、私たちは神さまが最高のガイド者を与えてくださいましたこと心から感謝します。団長のマイヤー牧師は毎朝バスの中で、その日見学する地域において起こった、聖書の出来事を関連づけて解説をしてくださいました。ひとつの場所で、何千年もの歴史が折り重なっている、しかも相互に時代を超えて関係し合っていることを教えてくださいました。ここに感動がありました。実物を前にした講演のようで贅沢な毎日でした。私は、イスラエル聖地を目の当たりにして、聖書の読み方が以前とまったく違ってきていることを既に感じています。また、先生には、１週間という短期間でありながら、密度の濃い、旅程を計画してくださったこと感謝いたします。

神殿の壁（西南）


第一神殿跡

アブラハムさんと恵美子さん

また、今回はいろいろ多くの課題を考える機会も与えてくださった旅行でした。私たちは、ヴィア・ドロローサを歩いて、イエスが十字架をかついでゴルゴダの丘まで向かった道をたどりました。私たち異邦人にも、自身の血潮の犠牲によって新たな契約をなしてくださったイエス様。しかし、約束の民であるイスラエル人の間では主イエスを救い主と考える人は意外にもごく少数派。今後、神様は、終末に向かってイスラエルを、周辺国を、世界をどう展開していくのでしょうか。この他たくさんの整理しきれない課題を抱えて帰ったことも一面です。いろいろな面でインパクトの大きな旅行でした。貴重な機会を与えてくださった神様に感謝いたします。

ヴィア・ドロローサ　第４ステーション－悲しむ母マリアと出会う

イスラエル旅行は、多くの方にお勧めしたいと思います。そして私たちはすでに次の旅行計画を楽しみにしています。

神殿の西壁：嘆きの壁

濃密で贅沢な８日間

原しのぶ

マイヤー先生と１５人の兄弟姉妹で参加したイスラエル旅行は私にとって忘れがたいもので、一言でいえば、濃密で贅沢な８日間でした。

マイヤー先生の朝の静かなみことばの時間から一日が始まって、興味深いイスラエルの歴史や地理と聖書に関する説明に堪能しましたし、旅の感動を兄弟姉妹の方々と時間を共有し、分かち合うことができました。

また、日本人のガイドさんの詳しいイスラエル事情の説明、ユダヤ人運転手さんが安全な場所を通ってくださったこと、主イエスキリスト生涯の足跡を点々と辿ることができたこと。
行ってみたかった死海文書が発見されたクムランなどなど、なによりも全員無事で帰宅できましたこと、まだまだたくさんあり、書ききれないほどです。

エルサレム旧市街ユダヤ人地区

ガリジム山で聖書6000年を眺望

特に私が印象に残ったのは、パレスチナ人居住区にある、ガリジム山（ゲリジム山）の上から、エバル山とシェケムの町を見渡せるところは聖書6000年の歴史が一望できる場所で圧巻でした。（アブラハム/ヨセフの墓/ヨシュア/イエスキリストがサマリア人の女と語った、ヤコブの井戸）この強い印象を通して、今後聖書を読む時に何千年の層が折り重なっている「ぶ厚い」聖書の歴史的時間と地名に注目しながら読んでいこうと思わされています。

この旅を最初から最後まで守ってくださった、主にこころから感謝いたします。

岩のドームと嘆きの壁

シャローム、我が友であるスイスのみなさん

キャプテン　アブラハム・ダハン

הטיול היה מדהיסבוקר טוב.
הטיול היה מדהים. הרגשתי כשגריר
ודובר של ישראל.
הסיפוק להראות את ישראל האמיתית
וההרגשה שהקבוצה חזרה הביתה
בידיעה והרגשה אחרת ממה
שהתקשורת מראה ומציגה.
הרצון של הקבוצה
לספוג את האווירה.
המראות ואת ירושלים האמיתית.
יודע עכשיו אני שיש עוד 15 שגרירים של
ישראל בעולם.
- וכמו שאומרים
שנה הבאה בירושלים.
שלום חברים / חברות !

おはようございます。

皆さんとご一緒したツアーは素晴らしいものでした。まるでイスラエルを代弁する親善大使になった気がしました。ありのままのイスラエルを見て体験する喜び、そしてグループはメディアが紹介するものとは違ったイスラエルに対する情報また感激を持って帰国されたことと思います。

常にいわれるように「来年もエルサレムであいましょう！」

エルサレムの城壁：ゲッセマネの園から

ヘブル的”お荷物”物語

松林幸二郎

１９７３年（ヘブライ歴５７３４年）、当時、ガリラヤ地方のナザレの南にある、グヴァトというキブツで労働奉仕をしていたスイス人の恋人を訪ねて、小さなリュックサックとギターを背に２週間イスラエルを旅したことがあります。シリア・エジプト連合軍の奇襲で勃発した第４次中東戦争、別名ヨム・キブル（贖罪日）戦争が始まる１０月６日の４日前、開戦前の緊迫感が全く感じられなかったイスラエルを後にして、放浪者であった私はギリシャに向かいました。シリアの空襲でキブツが跡形もなく破壊され、ボランティアで働いていたスイスからの若者達が、楽しみにしていた聖地旅行も中止となり、命からがら脱出した事は、インターネットのなき時代、随分後になって知る事となりました。

そして、今回、夢想だにしなかった41年ぶりのイスラエル再訪を、スイスJEGからの聖地旅行団の一員として、かっての恋人だった妻とともに実現出来たのは、まぎれもなく神様からのプレゼントでした。イスラエルの歴史と現在を熟知され、深い関わりを持たれるマイヤー牧師を団長としての今回の旅行は、参加者一人一人に期待以上の深い感動をもたらしたと共に、生きた聖書の世界を立体的かつビジュアルに、そしてヘブル的に正しく理解する又と無い機会を与えてくれました。その印象と感動の数々は、参加者の感想文によって知っていただけると信じます。この稿では、聖地旅行が、”珍道中”ともなった私の失敗談を記してみたいと思います。

Akkoアコにて、41年前。空手を見せろとせがむ子ども達。行く先々で「岡本公三！」と声をかけられた。

エルサレム旧市街にある神殿の丘の真下の西壁”嘆きの壁”の説明をマイヤー団長から受けて、壁に向かってつぶやくユダヤ人の姿を柵越しに興味をもって見学していました。ふっと気がつくと周りに我が愛すべきスイスJEGのメンバーが一人もいないではないですか！集合時間も場所もガイドさんから知らされていなかったので、神経の鈍い私もすこし慌てて広大な広場を見回してみましたが、見慣れた顔は何処にも見つからず、これはスイスJEG聖地旅行団の”お荷物”である私がてっきり置いてきぼりをくらったものと判断いたしました。”嘆きの壁”の前で嘆いていても仕方がないので、私は次の目的地のヴィア・ドロローサにに向かって歩き始めましたが、狭い路に間口一間ほどの店が乱雑にならぶアラブ人街はまさしく迷路、４０年前のかすかな記憶は全く役にたたず、西も東もわからず人波に流されるまま歩きはじめました。放浪旅行中は、これが日常の姿でしたから私自身は平静でしたが、妻やJEGのメンバーに心配をかけているのではと思うと、さすがに鈍感な私も申し分けない気持ちになりました。

嘆きの壁の前で祈るユダヤ人

前日、ヨルダンの谷を経てエルサレムに入り、キブツ・デガニアベットが経営する４つ星ホテルに着いて、ポーターにトランクを預けたのですが、一時間近く経っても部屋に届きません。仕方なく探しに出ると、パレスチナ人のポーターが仕事途中で嫌気がさしたのか、廊下や階段の踊り場のあちこちに届けられなかったトランクが放置されていました。発展途上国の２つ星のホテルでも、こんな珍しい体験は出来ません。大部分は持ち主が自分で見つけて部屋に運び入れたものの私の”お荷物”は何処にもなく、JEGのメンバーは輪になって荷物が出てくるよう祈ってくださいました。抗議を受けたホテル側が重い腰をあげ、あちこち探した結果、半時間後に全く関係のない部屋に放り込まれていた私の”お荷物”トランクが出てきました。

そんな前日のホテルでの”お荷物”騒動を思い出しながら、私は半時間余りパレスチナ・アラブ人の迷路を彷徨ったあげく見覚えのあるダマスコ門に出ました。携帯も繋がらず、ダマスコ門でたむろしているパレスチナ人のタクシーの運ちゃんにホテル（幸いホテルの名前は覚えていたのです！）までの値段を交渉しました。予め何人かのパレスチナ人を捕まえ相場を聞いておいてから交渉に及び、１００ドル（３８０シェケル）という要求額を７０シェケルまで値切って乗り込みました。

Damascus Gate ダマスコ門 東エルサレム・アラブ地区。よく騙されるのはこの名前のせい？

ユダヤ人、アラブ人、観光客が混然となる ジャッファ門付近

私は、どこの国でも言葉が通じる限り、タクシーの運転手と話をすることにしています。タクシーの運転手は通常話好きなうえ、庶民が何を考え、話題にしているかふんだんに情報を得ているからです。エルサレムでも、それぞれの家族のことを話し合い、ついでに２ヶ月近く続いたガザ紛争を話題にしたところ、４人の子持ちのパレスチナ人運転手は興奮しはじめ、話題にすべきでなかったことを悔いたものの後の祭り、横断歩道を歩くイスラエル人を轢き殺さんばかりの運転ぶりになりました。

曰く、「ユダヤ人とアメリカ人は世界一の大嘘つきだ！戦争を仕掛けるのはいつもユダヤ人で、パレスチナ人を抹殺しようとしている！」などなど。ハマスが、民間人を盾にして戦争するから市民の犠牲が多くなるのではないか、ミサイルを学校や病院、モスクの下に隠しているため被害も大きくなるのでは、イスラエルは空爆前に市民に退去宣告を出しているが、ハマスが退去するなとの命令を出している、、等の情報はハマスやパレスチナ自治政府側からは当然ながらパレスチナ人へは一切出されていない事は自明でした。骨の髄まで染み込んだユダヤ人恨めしとの憎悪観は、当然、合理的説明でぬぐい去れるものではなく、国際社会の”お荷物”となっているパレスチナ人と呼ばれるアラブ人の聞きしに勝るアグレションに、ユダヤ人とパレスチナ人の間に立ちはだかる巨大な憎悪の壁を否が応でも感じざるを得ませんでした。

Nazareth ナザレ1973、貧しいクリスチャン・アラブ人青年が未だ静かだった街の絶景が見える高台に案内してくれた。

その後、ホテルに着くまでパレスチナ人運転手の興奮をなだめるのに時間を費やしましたが、客が運転手をなだめるという希有な経験で、アブラハムを父とするこの二つの骨肉の争いを身を持って知ることになりました。ホテルに着くと、携帯にも何とか繋がり、私たちが族長と呼んでいた優しい運転手のアブラハムさんが笑顔でホテルから、”放蕩息子”なる私をスイスJEGメンバーの待つジャッファ門まで運んで下さいました。愛するメンバーは、嘆きの壁の前で”迷子”になった私の為に、前日に引き続き、再び輪になって祈ってくださったとのことでした。心からお詫びするとともに、感謝の念で一杯になりました。

エルサレム市街を走るモダンなトラム

”二度あることは三度ある” その翌日は、パレスチナ自治区内にある旧約の舞台で何か起こるような予感が致しました。三度目は、会見の幕屋が張られたシロの遺跡で、お隣のロルフさんからお借りした使い古した麦わら帽子とボールペンが風に煽られ、遺跡内に落下したことです。シアトル生まれの遺跡ガイドさんが立ち入り禁止の遺跡の底まで行って拾ってきてくださいました。エルカナがハンナをなだめていた場所かもしれません。エルカナさん、ハンナさん、ごめんなさい。その後、特筆すべき失敗は起きず安堵の思いでした。

神が祝福を約束されたアブラハムの末裔であるイスラエルの民に、後から参入したにも拘らず、イエス様を信じることを通して、私たち異邦人をも救いと祝福に預かるものとしてくださったことに感謝し、イスラエルのために引き続き祈ることの重要さを感じました。それと共に、真の神を知らないイスラム教徒や、怨念に身を焼くパレスチナ人のために更なる執り成しの祈りを捧げる必要を身に染みて感じた今回の旅でした。

シロ：会見の幕屋があったところ

Lehrreiche Erfahrungen in Israel

Heidi Matsubayashi

Dass ich die Gelegenheit hatte, diesen Herbst nach Israel zu reisen, ist für mich eine grosse Bereicherung.

Die verschiedenen Orte zu erkunden, wo Jesus mit seinen Jüngern gelebt und gewirkt hat, gibt eine neue Dimension in mein Glaubensleben. Zudem verstehe ich die Verheissung, welche Abraham, Isaak und Jakob von Gott gegeben wurde - nämlich, dass ihr Volk dieses Land in Besitz nehmen soll -, besser; und ich habe nach dieser Reise eine klarere Vorstellung, was es für die Bewohner dieses Landes bedeutet, wenn sie inmitten der Wüste von Palästina ihre Siedlungen errichten.

Wo die Palästinenser die fruchtbaren Orte, wie Jericho oder Nablus, bewohnen und nie Interesse zeigten, auf einem der abgelegenen Hügeln Häuser zu bauen, versteht man erst richtig, wenn man durch diese weite Wüstenlandschaft fährt. Umso mehr staune ich über den Mut der Juden, die sich solche Orte ausgesucht haben, um Siedlungen zu bauen, weit ab von der Zivilisation.

Gott segnet dieses Volk offensichtlich, indem er durch ihrer Hände Werk inmitten einer kargen Landschaft schöne Dörfer entstehen lässt, wo Ordnung herrscht, wo es blüht und gedeiht; - (im Gegensatz zu den unordentlichen, mit Abfall und unbrauchbaren Gegenständen übersäten Gegenden, in denen sich die Palästinenser niedergelassen haben.)

Jordan: Johannes rief zur Busse auf und taufte viele Israeliten - auch Jesus liess sich von ihm taufen.

Leider sind viele Orte, die wir vor vierzig Jahren bereisen konnten, überhaupt nicht mehr erreichbar, da man um sein Leben bangen muss. Einige wenige Strassen können noch mit speziell gebauten Bussen mit schusssicheren Scheiben benützt werden.

Es ist mir ein Anliegen geworden, vermehrt für die Juden zu beten, aber gleichzeitig Gott zu bitten, dass er die Herzen der Palästinenser berührt, sodass sie den wahren Gott kennen lernen, der sie von innen her verändert und den Hass, den sie den Juden gegenüber empfinden, in Liebe umwandelt.

イスラエルにおける示唆に富む経験

松林ハイディ

この秋、イスラエルを旅する機会が与えられた事は、私にとってとても大きな収穫となりました。イエス様が弟子とともに住まわれ、お働きをされたさまざまな地を探索することによって、私の信仰生活に新たな広がりと次元が与えられました。それに加え、アブラハム、イサク、ヤコブに、神から与えられた約束を理解することが出来ました。すなわち、彼らイスラエルの民が、これらの土地を神から与えられ所有するよう約束されたことを．．．。

死海に向かう途中、海抜０m地点

また、今回の旅行を通じて、パレスチナの荒野の中に入植地を開拓する際、この地がイスラエル人にいかなる意味を持っているのか、明確なイメージを抱く事が出来ました。パレスチナ人がエリコやナブロンといった豊穣な土地に住み、人里離れた不便極まりない山の頂に家屋を建てることなどに全く興味を示さなかったことを、この広大な荒野を旅してみて初めてよく理解できます。私は、あらゆる文明の恩恵から遮断されたような場所を求めて、入植地を開墾したユダヤ人の勇気に驚かざるを得ませんでした。

神が、この民を祝福しているのは明白で、イスラエルの民の手を用いて、この不毛な土地に、花が咲き成長する、秩序だった美しい村を築かせたのです。（それは、無秩序と不潔さが蔓延し、ゴミと廃車と廃棄物が住居のまわり一面に乱雑に散らかっているパレスチナ人の居住地と対照をなすものです。）

４０年前には問題なく旅行出来た数々の場所が、現在、身の危険を侵さねばならず、入る事ができないのは残念なことです。パレスチナ人自治区では、比較的安全とされる僅かな数の道路は、まだ防弾ガラスを施した特別なバスで通ることができます。

今回の旅で、いっそうユダヤ人のために、また同時にパレスチナ人と呼ばれるアラブ人の心に神が触れ、彼らが真の神を知るようになって内部から変わり、ユダヤ人に対しての憎しみが愛に替えられるように、とりなしの祈りをすることが私の課題となりました。

駱駝に乗るのは楽だ！：海抜０m地点で

もう一度行きたい国

ヒアット明子

イスラエルへの旅行は、何というか、魅了させられました。小さな細長い砂漠の国ですが、自然の産物であるオリーブ油、ナツメヤシの実、ナツメヤシの蜜、数々の果物類、ひよこ豆は食事にふんだんに使われていました。

それに、数多くのキブツが理想主義の生活の場として、現在も残っています。ハイファは非常に美しい港町です。2000年前の建造物は、700年前に地震で海に落ちたそうです。

国境からたった７キロしか離れていないゼデッカホームにも行きました。そこでは、ホロコーストで神経にそして精神的に打撃を受け、身も心もくたくたになられた人達に会いました。防空壕の設備もきちんと出来ていました。

北はゴラン高原、そしてガリラヤ地方、ガリラヤ湖はとても静かな湖でした。海のように貝があったので拾いました。この地方の静けさにイエス様そのものを感じました。ヨルダン川も忘れられない一つです。

エルサレムは旧約の時代から、イエス様の時代、そして現在に至るまで古い時代そのままでした。テルアヴィブは新しい発展の町、ハイテクの町シリコンバレー、そして死海へ行くまでに見たベドウィンの生活、北から南の死海まで、東側の谷側は海抜下でした。

ガリラヤ湖：復活したイエスがペトロに会った処

ヨルダン渓谷で即席バンド

EnGedi:エンゲディの谷をダビデの滝を目指して登る

またダビデの滝まで登り下りした事、この土地は砂漠と言うより高い岩山の感じがしました。この旅を通して、もう一度行きたい国だと思いました。

Totes Meer : 旅行の最終日に海抜マイナス390mの死海で一泳ぎする

Die Reise nach Israel

Karin und Thomas Müller

Die Reise nach Israel war eine grosse Bereicherung für unser geistliches Leben.
Viele Ereignisse und Berichte der Bibel sind nun viel lebendiger geworden.
Die Gemeinschaft untereinander war sehr wertvoll.

QUMRAN 18.Okt.2014

イスラエルへの旅

ミューラー・カレン＆トーマス

イスラエルへの旅は、私たちの霊的生活にとって、実に大きな収穫となりました。

多くの聖書の出来事や記述が、今や活き活きとしたものになりました。

そして、スイスJEGの兄姉との交わりは、本当にかけがえのないものでした。

Sichem/Nablus：ガリジム山からシュケム（パレスチナ名ナブルス）を見下ろす。

旧約と新約が結びついた時

黒田閑恵
プラハ・コビリシ教会日本語礼拝

この旅を導いてくださった主に心より感謝をささげます。そして、引率のマイヤー先生を始め、えみ子さん、アブラハムさんによってこのように内容深い旅が実現したことをとても感謝しております。

行ってみないとわからないのは、どの旅もそうですが、今回ほどその思いが大きく強かったことはありません。古いPCのように容量の少ない私の頭には重すぎる印象が残っています。重いといっても、否定的な意味ではなく、大切な重さです。

17日のガリジム山からの眺めは、山々、谷の形は旧約時代と変わらず、この下のシェケムの町のどこかをイエス様が弟子たちと歩き、サマリア人の女から井戸の水をもらって．．．と、半日ぐらい座っていたいところでした。私には、旧約に登場する地名、人名があまりに多く混乱、あいまいな記憶になっています。それでも、ここで旧約・新約が頭のなかで結びついた感じがし、装甲車バスに乗ってまで連れて行っていただいたことは、本当に貴重な体験でした。

旧約・新約、そして現代のイスラエル、幾重にも重なり、複雑にからみあったこの地を、わりと単純な日本で育った私は、呆然と観る思いです。石堂さんの記事で、この地の現在のややこしさを理解し始めました。「イスラエルをわかっていない」ことがわかるようになりました。

ナザレ・ヴィレッジで毛糸を紡ぐ

一人になってからの黒田はどうしたのかと言いますと、心細い思いを励まし、午前中テルアビブへ向かいました。フロントのお姉さんが、電車よりバスを勧めたので、タクシーでバスターミナルへ。　タクシーは、払う段に急にメーターが55から78に上がるしくみ。今度は正しいバスを探すのに一苦労で、遠距離はコントロールチェックを通って、ターミナルビルの中から乗るのです。わかりにくくウロウロしていると、老婦人が声をかけて助けてくれました。１時間弱でテルアビブ・バスターミナルに到着。ここは、エルサレムのバスビルに輪をかけて混雑、複雑で出口を見つけるまで30分掛かったのです。エレベーターで４を押すと、地上階だったのです。

グーグルマップで調べておいたB&Bは歩いても近いので、カンカン照りのもと20分ほどでその通り、番地にたどり着いたのですが見つからないのです。表通りは閉店した店、角をまがっても古い鉄さびのドアがあるだけで、表札もベルも何も見当たりませんでした。もう疲労と困惑の頂点でした。

テルアビブの絨毯屋

ついに部屋に入れるまでの２時間あまりのことは、長くなるので省きますが、近くのカフェの人々が助けてくれたりして、ここでも人の親切が身にしみました。チェコもそうですが、人が困っていると、かまってくれるのです。えみ子さ説をあたらめて思い出しました。

テルアビブのB&Bのオーナー

B&Bの主は、私の娘と同じような年頃の若い娘さんで、犬１匹、猫２匹と暮らし、１部屋をネットでB&Bとして出していたのです。日本に興味があり、ゆっくりくつろいで話すことができました。（私はへたな英語で）翌日、何かの用でご両親が立ち寄られました。お父さんは１歳の時イエメンから、お母さんは５歳でブルガリアから移住してきて、子供時代はキブツで暮らしたとのこと。あれやこれやとお話を聞き、普通のイスラエル家庭の一端にふれられたことは、とても興味深いことでした。ちなみに、ここの犬の名前は、まんじゅう（ま、にアクセント）。親戚では５匹生まれ、日本食の名にしようとのことで、みそ、だし、ダンゴ、ヨーカン、そしてまんじゅう、ですって！大笑いしました。

スイス日本語教会の兄弟姉妹、ドイツの姉妹の上に、聖地からの祝福がずっとありますように。

テルアビブの海岸にて

パウロ召命教会の東に拡がるガリラヤ湖

イスラエルの救いと私

今村葉子

私はキリスト者にとってどんなにイスラエルが大事な意味を持つのか、知らないままクリスチャンとなり教会生活を送っていました。聖書を読めば読むほどイスラエルは私にとって訪れてみたいところとなりました。今回JEGの皆さんと一緒にイスラエルを訪問できた事は本当に嬉しく感謝なことでした。

私にとって、イスラエル旅行は紙面に書き表す事が出来ないほど深い体験でした。たくさんの事が思い出されますが、最も印象に残った事、ベスト３を皆様にお分ちさせていただきます。

１、イスラエルの景色

ガリラヤ湖。水がとても温く、またたくさんの魚（それも稚魚）が群れていました。その情景はイエス様の優しさと愛を現しているように思いました。ガリラヤ湖畔はイエス様がペテロをはじめ、弟子たちに現れて赦しと召命をお与えになった場所で新約聖書のお話の中で、私が一番感動した舞台です。だから、実際にその地に立って吹き抜ける風を肌に感じ、何とも言えない幸せを感じました。またイスラエルは神様が特に愛しておられる国なのだと思わざる得ないほど、クムランやヨルダン川に沿って広がるユダ地方、エルサレムの町、どこに行っても神様の臨在を感じました。

ガリラヤ湖で

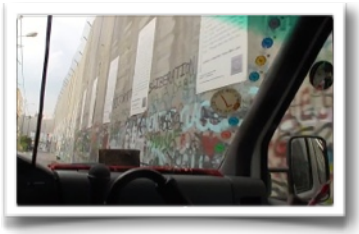
２、イスラエル、ユダヤ人に対するマイヤー先生の深い思い。

マイヤー先生がイスラエルについて語る時、私は先生がいつも特別な思いをもっておられる事を感じていました。今回マイヤー先生と関係の深いリーベンツェラーの老人施設（ホロコーストを生き抜いて祖国に帰還した方々の為の特別施設）を訪問し、そこで働いておられるドイツ人スタッフの方々の姿勢を拝見して、マイヤー先生と同じ特別な思いをもって働いておられる事をやはり感じました。ホロコーストの歴史はユダヤ人だけでなく、マイヤー先生の様にドイツ人で、クリスチャンである方々にとっても辛い歴史だと思いました。マイヤー先生のユダヤ人に対する深い思いをいち早く感じ取られたのは運転手のアブラハムさんなのでしょう。テルアビブの空港でマイヤー先生とアブラハムさんが交わしたお別れの抱擁はとても印象深く感銘を受けました。

マーロット老人ホームで賛美

３、ベツレヘムの防護壁

ベツレヘムにあるキリスト生誕教会に行く為に私たちは歩いて防護壁を通り抜けなければなりませんでした。ベツレヘムは今、パレスチナ自治区になっているからです。壁を挟んだイスラエル側とパレスチナ側は本当に別世界でした。貧富の差もあるでしょうが、私が想像していたよりもベツレヘムのパレスチナ自治区は貧困ではなく、その観光業ゆえにむしろ他のパレスチナ自治区よりも裕福だと思いました。しかし、建物の建て方、ゴミの捨て方、交通整備、どれをとっても計画性がないので、秩序がなく混沌としていました。


防護壁：パレスチナ人居住区

人々も商売熱心なため、お金にしか興味がなく、彼らが片言の日本語で近寄って来ても、その心が人に向いていないのが分かってしまいかなりがっかりしました。文化の違い、人種の違いと言われればそうなのでしょうが、イスラエル側が防護壁を作って守りに徹する気持ちは、残念ながら容易に理解できてしまうのです。

そんな事を思いめぐらせていると突然、救われる前の混沌としていた自分の心の状態を思い出し、愕然としました。自分が価なしに救われた事、そして、その救いは神様がユダヤ人の救いに付け加えて用意して下さったもので、日本人である私はイエス様の捧げてくださった命ゆえに救われたのだ思うと、嬉しいし、感謝だけれど、イスラエルの今の状態を思うと、うなだれるほど、切なくなりました。

神様はイスラエルを愛しておられるから、イスラエルの救いがなければ、私も喜べない気持ちになりました。イスラエルに来なければ、自分の救いの喜びだけに満たされていて、神様の御思いに目を向ける事はなかったとおもいます。すべての国、民が膝をかがめて主を礼拝する日が来る事を望む祈りがますます大きくなりますように心から祈り求めます。

エルサレム：ジャッファ門

イスラエル聖地旅行について

今村泰典

私はイスラエルが歴史的にどういう土地であるのかというのを全く実感しないまま、また何故いつも紛争が起きているのかを理解しないままというより、興味を持たないままイスラエル国営のエル・アル航空に乗るべくチューリッヒ空港に到着しました。まず出発時間の2時間前ではなく、3時間前に集合というのが驚きでした。しかもエル・アル航空の全飛行機にはミサイル回避装置（ミサイル警報、妨害装置）が施されていて、いざという時にはレーザーで相手をロックする装置までついているとの事。この事は出発の１～２週間前までは無知で全く知りませんでした。何故そこまでしないといけないのか、というと常にテロの脅威にさらされていて、実際ケニアでテロリストに狙われた事があるからだそうです。案の定、出発は2時間遅れ。エルサレムからの飛行機がまだ到着していない為という事でしたが、結局チューリッヒ空港に5時間釘付けされた計算になります。何故エルサレムからの飛行機が遅れたのかというのは、エルサレムからの帰りの便に乗る時のチェックの厳しさ（二重、三重の荷物チェック）で納得しました。

今回のイスラエル聖地旅行については、実は7月～9月にわたり多数の死傷者を出したガザ地区での6週間戦争によって実現が大変危ぶまれていて、一時はこの旅行自体をキャンセルせざるを得ない状況になっていたにも拘わらず、1年がかりでJEGが計画していたこの10月のイスラエル聖地旅行を実現することができて本当に神様に感謝いたします。

私にとってイスラエル旅行は2度目ですが、前回は20年以上前の演奏旅行だったので、この様にじっくり聖地を巡ることはできませんでした。今回はたった7泊8日の旅行でしたが、場所と地名とがあやふやになるほどたくさんの名所を訪れることができた事は感謝です。しかしながら、イスラエルは聖地だけあって、聖書の記述にある地を巡ろうとするとこの日数では到底足りず、再度聖地旅行を企画して行きたい気持ちです。

感想は一言で言うと「感激」です。それは聖地をこの目で見ることができたことによる感激ですが、また同時にいくらかの「当惑、落胆」もありました。例えば「ゴルゴタの丘」や「ヴィア・ドロローサ」は当時の面影が全くなくなっていました。ゴルゴタの丘には大きな聖墳墓教会が建てられ、中は金銀で豪華に飾られていて、ヴィア・ドロローサはアラブ人の市場、御土産屋に代わっていた事、イエスが生まれたとされるベツレヘムの洞窟跡にきんきら金のベツレヘム聖誕教会が建てられたりしているのを見て、当惑させられたりというのも事実でした。

ハイファ、カイザリアの遺跡、カペナウムのペテロの家があった跡、イエスの山上の垂訓で有名なガリラヤ湖を見渡せる丘、遠浅のガリラヤ湖を訪れることができ、本当に胸が熱くなりました。エルサレムのホロコースト博物館は想像を絶し、吐き気を催すほどでしたが、私達が二度と同じ過ちを繰り返さない為にもきちんと保存されるべきだと思いました。

カペナウム近郊の山上の垂訓教会

死海に行く途中、クムランの洞窟に行きました。といっても洞窟に実際に入ったわけではなく、遠くから眺めたのですが、それでも迫力満点でした。紀元66年にローマ軍がユダヤを攻めて来た時に、大事な聖書を守る為、ユダヤ教徒のクムラン教団の人達は壷に入れてこの辺鄙な洞窟に隠したらしい。この洞窟で1947に最初、ベドウィン（砂漠に住んでいるアラブの遊牧民）の子供達により「死海文書」の一部が発見され、それから 1956年にかけて、死海の北西にある遺跡ヒルベト・クムラン周辺（11の洞窟）で考古学者によって「死海文書」が発掘された。1900年

死海文書の見つかった洞穴

En Gedi. エン・ゲディ国立公園

間も無くならずにほぼ完全な形でこの様に聖書が見つかった事は奇跡に近い。何故なら仮に無傷でベドウィンの子供達により発見されても、彼らには無用の産物で、棄てるか、燃やすかされても不思議では無いが、それが考古学者の手に渡ること自体、奇跡に近いと思います。

ダビデの滝

また死海の西側、マサダとクムランの洞窟の近くにあるオアシス、エン・ゲディ国立公園にある「ダビデの滝」も訪ねました。ダビデがまだ王になる前、サウル王によって追われてこの滝のあるエン・ゲディに逃げ隠れたと聞き、感無量でした。

エルサレムについては一言では全く言い尽くせないほど複雑です。ここは宗教、民族、文化や言語が入り混じっています。ムスリム地区、ユダヤ地区、クリスチャン地区、アルメニア地区があり、少し歩くと異文化になり、道も細くてとても複雑です。また「嘆きの壁」は男女別になっていて男性用のほうが少し広いようでした。ここでハプニングがありました。M兄がこの嘆きの壁で失踪、30分待っても見つからないので、皆嘆き、というか嘆く代わりに必死に祈りました。するとどうでしょう。M兄はちゃっかりタクシーでホテルまで帰ったげな。M兄曰く、乗ったタクシーの運転手はパレスチナ人で、相場では70シェケル（約15ユーロ）と聞いていた運賃を100ドル（約80ユーロ）と吹っかけてきたそうです。パレスチナ人の気質はこういう所にも現れているようです。

いよいよ西岸、パレスチナ人居住区へ

またパレスチナ人の領土に入るので念の為、装甲車（全防弾ガラス装備）のバスに乗り換えてシロ、シェケム／ナルブス、エロン・モーレ、ガリジム山を見物しました。途中、想像していたのとは違うとても狭い泥水のヨルダン川（ガリラヤ湖に近い上流は澄み切っていてきれいでしたが）を訪れました。当時人々はここから生活用水を取っていたのだと感慨深い気持ちになりました。一つ異様な光景はイスラエル側にイスラエル兵達がそして対岸のヨルダンにはヨルダン兵達がライフルを携えて待機していたことです。またエルサレムからずっと続いている防護壁も異様に見えました。その防護壁にも所々検問所があり、イスラエル兵が待機して、パレスチナ人が侵入しないように見張っていました。実際この防護壁があるお陰でパレスチナ人とのトラブルが以前よりずっと減ったと聞いています。ヨーロッパに住む私達には何の為に防護壁を作り、また兵隊が待機しなければならないのだろうかと思いますが、、、それほど私たちの住む世界は平和なのだとつくづく思いました。

またベツレヘムも現在はパレスチナ居住区になっている為、イスラエルとパレスチナの境になっている検問所を通って入りましたが、そこで待っているはずのバスがそこに無く、その間、御土産屋で待たされ、待たされて、何度か電話してやっとパレスチナ人が運転するバスが迎えに来ました。まるでその土産物屋で何か買わないと迎えに来ないぞと意思表示しているようにも思えました。ベツレヘムからの帰り、初めの約束通り、羊飼いの様子を見学する為に２～３ｋｍバスで周ってもらうようにパレスチナ人の運転手にお願いした所、最初の約束が反故にされ、金品を要求してきたので結局そのままエルサレムに戻りました。この事からもパレスチナ人はどうも信用できない様に感じました。

ベツレヘム防護壁、イスラエル側

カオスが支配するベツレヘム

また今回ユダヤ人、パレスチナ人、そしてキリスト教徒の生き様を少し垣間見ることができた様に思いました。ユダヤ人的視野から見ているのかもしれませんが、パレスチナ人の居住区は一言で言って「ぐちゃぐちゃ」という印象を持ちました。街づくり、整理整頓とは程遠い計画性のないその日暮らし的生活、生き方の様に見えました。道路は整備されていない、建物は壊れたものはそのまま、作りかけの家、建物が建設中ではなく、そのまま放置されているといった様に。尤も経済的に貧困ゆえその様になっていると思いきや、どうもそれだけではないらしい。街づくりや国づくりに興味が無い人種の様に見えました。

また今回のイスラエル旅行を本当に円滑なものとさせて下さったのは、団長であるマイヤー牧師の聖地における解説及び細やかな気配りのお陰ですし、また縁の下の力持ちとして20年間無事故のベテラ ン運転手、アブラハムさん、そしてイスラエル人とご結婚されているガイドのデリ杉田恵美子さんの働きによる所が大

オリーブ畑：カルメル山

きいです。 特にデリ恵美子さんは常に笑顔を絶やさず、ウイットに富み、聖書に関する知識も深く、要所要所でヘブライ語から日本語、英語から日本語に通訳して下さり、この旅行を本当に楽しいものとして下さった素敵な女性です。次回のイスラエル旅行も是非、アブラハムさんとデリ恵美子さんのコンビにお願いしたいと思います。

最後に、このガザ地区のパレスチナ人に対して、エルサレムにお住まいのクリスチャン・ジャーナリストの石堂ゆみさんのコメント（2014年7月12日付け）を以下に引用したいと思います。

そろそろ海外から、イスラエル批判が出始めている。パレスチナ人たちは、「独立した国がないからこんなことになる。イスラエルは占領をやめるべきだ。」と言っている。これに同感と考える欧米の人々がすでにデモを始めている。確かに、民間人が犠牲になっていることを肯定することはできない。しかし、全面的にイスラエルだけが悪く、ハマスに責任はないのかといえばそうではない。

*2005*年８月、イスラエルは、ユダヤ人開拓者たちが、長年かけて土地を改良し、築き上げたハイテクの野菜農業施設と自宅を、強制的に放棄させ、イスラエル軍も共に、完全にガザから撤退させたということを思い出していただきたい。イスラエルが撤退してから、まもなく９年になる。パレスチナ人たちは、この９年の間に、ガザ地区で、独立した国を立ち上げる、またはその準備をする可能性があったはずである。

ビル・ゲイツ氏はそのために大金をはたいて、撤退するユダヤ人からハイテク農業システムを買い上げ、ガザのパレスチナ人に無料で譲りわたしたのである。ところが、ガザのパレスチナ人たちは、それを踏みつけ、めちゃめちゃに破壊した。実質的な産業開発や、国づくりはせず、イスラエルを攻撃するためのミサイルをためこむことに心血をそそいだ。市民の生活水準をますます悪化させたのはハマスである。イスラエルが、ガザの周囲を閉鎖して、監獄のようにしているというのが問題とされるが、イスラエル攻撃のためのミサイルを運び込み、兵士を誘拐するテロリストを送り込んでくる隣人がいたら、囲いをして防ぐのは当たり前の事ではないだろうか。

また、この５年の間に、ハマスとのこのような対決になるのは３回目。今回は、ミサイルをハマスが溜め込む時間かせぎになる停戦ではなく、抜本的な解決に持ち込みたいというのがイスラエルの現時点での方針である。イスラエルと20年以上の付き合いになるが、この国は実質、民主的である。この９年、もしガザ地区が、テロを行わず、真にパレスチナ人の国づくりへの努力をし、信頼関係が構築できていれば、今頃、閉鎖は解除され、友好的な隣人どうしになれたのではないかと思う。現在のような事態になり、心痛む限りである。

様々な教訓をいただきました

デリ杉田恵美子

エルサレム在住ツアーガイド

いつも日本からグループの予約が入ると、嬉しさと不安な気持ちが半々で逃避したい気持ちになります。

特にマイヤー牧師が率いられたこのスイス日本語福音キリスト教会の巡礼グループには、いくつか自分が行ったことのない場所（ヨルダン川西岸パレスチナ自治区にあるシロやゲリジム山など）が含まれていたので尚更でした。絶壁に立たされ逃げ場がないような気持ちでした。

私がガイドの資格をとったのは1999年ですが、2013年 9月までは観光会社に勤めていましたので、むしろホテルやレストラン、バスなどの手配側の仕事をしておりました。ですから他のベテランのガイドさんに比べると駆け出しの方です。そのため主人はいつも「お客様が何を求めているのか、何を喜んでくださるのかを考えて、心と体を使ってご奉仕しなさい。」と励ましてくれました。それと共に私自身が目的としている「より良き人間に成長する」ことを、全てのお客様から学ぶということをモットーに仕事に接しています。

今回のツアーでは、それぞれユニークで色々な人生経験をお持ちのお一人お一人から様々な教訓をいただき、感謝と喜びに満ちた一週間を皆さんと過ごさせて頂けた幸運をしみじみ感じております。皆さまのご健康、ご活躍をエルサレムの地より毎日祈っております。

本当にありがとうございました。

シャローム

スー先生、また会う日まで！

スー先生、ほんとうにありがとう

星　由美
ストックホルム日本人聖書会

２８年間続けられた、ストックホルム日本人聖書会の最後の３年間を、スー先生とご一緒させていただきました。

月に一回の金曜日、行き帰りの車の中で色々なお話を聞かせていただきました。アフリカでのボランティアのお忙しいスケジュールの中、どんなことがあっても聖書会はキャンセルをされなかったこと、会でのメッセージの準備のため、夜を徹することはしばしばであったこと、何をしていても常に聖書会のことが頭から離れないこと等々。韓国人の先生が、これほどまでに日本人の魂の救いを我がことのように思ってくださり、胸が熱くなる思いです。

２０１４年１０月１０日。聖書会を終え、ストックホルムからほど近いリーディンゲのご自宅に着いて私の車から降りた時、深くため息をつかれました。その晩も全力を尽くしてくださった先生に、「今夜はよく休んでくださいね。」と申し上げました。それがお会いした最後となりました。数週間後に先生はイエス様のみもとでお休みになることとなりました。

先生がいらっしゃらなくなったことがまだ信じられず、寂しさを覚えることすら夢のようです。スー先生、ほんとうにありがとうございました。ストックホルムの寒い冬はもうそこまで来ていますが、心は先生の思い出で温かです。

スー先生の想い出

馬場晶子
ロンドンJCF

スー先生の突然の訃報を聞き、悲しみと共に、天国に凱旋されたことを神様に感謝いたしました。

先生との出会いは17年前のオスロでの修養会でした。当時渡英したばかりの私は、一歳に満たない次女を連れて、一人で参加しました。到着した夜から娘は高熱をだし、オロオロする中で小児科医であるスー先生を紹介されました。先生は日本語もお上手で、日本人の宣教の重荷を持って参加されていたとお聞きしました。早速先生は娘を診察して下さり、夜中でもいつでも電話をしてくださいとお部屋を教えて下さいました。

翌朝には部屋に来てくださり、娘を診察して下さいました。熱は三日三晩続きましたが、先生が共にいて下さるという安心感で一杯でした。それから集いでお会いする度にそのことを感謝し、懐かしく思い出しておりました。

昨年のパリでの集いでは成長した17歳になる娘との再会を嬉しそうにされていました。我が家には現在クリスチャン小児ドクターとして、英日で仕事をしている長女がおりますが、スー先生のようなお心を継いだ者として、機会ある毎に集いで奉仕をさせていただいております。

日本人を愛された先生

浜島敏
善通寺バプテスト教会

スー・スパングフォード先生の召天のお知らせを、先週の週報で知りました。懐かしく思い出します。彼女は、もうずいぶん前になりますが、四国にもいらっしゃり、私どもの教会と近くの教会の2箇所で集会を持って頂きました。また、私の家にお泊まり頂きました。二階にお泊まりでしたが、何かのはずみで、帰国する朝、階段を2，3段滑って、怪我をなさいました。大した怪我でもなく、予定どおり出発なさったことを今さらながら思い出します。

また、スウェーデンの先生のお宅、また教会を訪問したことも思い出します。世界一臭いという魚の缶詰のお話を聞き、早速土産として買って帰ったことも思い出します。その後も何度もキリスト者の集いでお会いしました。本当に日本を愛しておられた方で、また医者として、困難な中にある方々に親身になって奉仕されたことを今さらながら思い起こします。

最後に日本でお会いしたのは、東日本大震災の次の日のことです。盛永先生をお迎えして開くはずであった集会に出席になり、（実際には、盛永先生は地震の影響で、会場まで来られませんでした）、懐かしくお話しさせて頂いた時であったように思います。

その後、フォンテンブローでもお会いしたのだなと思いました。あの時は、かなり弱っていらっしゃったような印象を持っていますが、私のことを良く覚えてくださっており、知恵子にも懐かしく話しかけてくださいました。本当にたくさんの思い出があります。先生を通して、たくさんのお恵みをいただきました。近ければ、飛んで行きたいところですが、残念ながらちょっと遠すぎます。ご家族の上に、神さまの豊かな慰めがあるようにと祈らせて頂きます。

スー先生の足跡

スウェーデンで医師として長年働く。ストックホルムのSophiahemmetに勤務。Lidingöにも診療所を開く。

医療伝道のために数回ルーマニア、アフリカ各地を訪問。また、医者のいないケニアの奥地には定期的に滞在。スウェーデンにおいても、医療保険でカバーされない人々、亡命希望者の往診をする。雪深い奥地にも、スキーで往診。助けてもらった誰しもが、彼女が偉大な医者であるイエスさまを生き写していることがわかった。

今年４０周年を迎えたストックホルムのイマヌエル教会インターナショナル礼拝に長年属し、また、１９７８年にイマヌエル教会の中に韓国語礼拝を設立した重要なメンバーの一人。当初小さな祈り会で始まった群れが、現在では１９０名の韓国人が登録している。また、ストックホルムで２８年間、ヨーテボリでも長年、日本人聖書会を主宰。多くの日本人が救われる。

また、２８年間、イマヌエル教会の一室で、日本語聖書会をリード。多くの日本人が救われる。それに加え、地元スウェーデン教会でも、祈りの会を定期的にを持つ。４カ国語にわたり、ご自分の賜物を神のご栄光のために捧げ、人々に祝福を与えてくださった。

スー先生召される の知らせを受けて

いつも笑顔で優しかったスー先生へ

「金子さん、お元気ですか。ちょっと心配してね、それでお電話したの。でも元気になられて良かった。」と突然の電話があったのは2カ月ほど前でした。

いつも人のことばかり気つかって、暖かい、思いやりのある祈りの先生でした。アフリカ医療支援は、先生の信仰にある行動のすべてを物語っています。

スー先生、ありがとう。あとに続きたいです。

金子進
オスローJCF

スウェーデンの姉妹から連絡をいただいてびっくりしておりました。本当に突然でしたね。

スウェーデンの姉妹は10月半ば、日本に一時帰国する前に、先生にお茶を買ってきてちょうだいと頼まれたとのこと、それまではお元気だったということですから、本当に突然だったのでしょうね。お一人で暮らしておられたので、ある意味では長患いをする事なく召されたというのは、神様のご配慮だったかもしれません。ただこれからのストックホルムでの集会のために、特に覚えてお祈りしていかなければと思っています。飼う人のいない羊の群れにならないようにと、、、。

私たちの集会にも度々お越しいただき、御奉仕していただきました。

一昨年フォンテンブローでお会いした時、あまりに急激に弱られていたので少々驚いていたのです。何時も親しくさせていただいていたので、本当に残念です。

でも、今は天のみ国で、腰の痛みを覚えることなく、全部癒されて安らいでいることを思うと、私たちにも何となく慰めがあることを思います。

心のこもった訃報を頂いて、主にある兄弟姉妹の愛を感じております。
ありがとうございました。

森 よし
ブリーネ 祈りの家

スパンフォード先生の召天のお知らせを感謝します。丁度１か月前にはルーマニヤでの研修会の件で電話でお話したこともあって、かなりショックです。

医師として献身的にアフリカ等で仕えられ、又、日本人ではない先生が日本語を独習され、ストックホルムの日本人に何とか御言葉を教え、神様の愛を知らされようとしたお働きは、主の前に実に尊いものであり、私達にとっても大きな励ましとなることです。どうか主の身元で安らかに、待っていてください。

安藤廣之
ミュンヘン日本語キリスト教会

スー・スパンフォート姉はパリ教会でも何度か証をしていただいたことがあります。アフリカでよく活躍（無医村をジープで駆け回るなど．．．ほとんどはイスラム圏）されていました。

また、仮名だけしか読めなかったので口語訳聖書で日本語を自力で勉強し、ストックホルムやヨーテボリに住むスウェーデン人と結婚している日本の婦人たちに聖書の勉強会をされていました。

ご自身、内科の開業医であったので、そこに来る婦人たちをも集めて聖書講座を開いておられました。渡部兄や私たちは彼女のことを“女、安部哲”と呼んでいました。

作田銀也

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

第３０回　仏・フォンテーヌブローでの
ヨーロッパ・キリスト者の集いにて

短い期間ではありましたが、キリスト者の集いや教職者会でご一緒になる機会があり、いろいろとお交わり出来ましたこと、そのお人柄と信仰の証しは深く心に残っているだけではなく、その尊いご奉仕に対しても心からの感謝と賛美を主におささげしたいと思います。そして、御国においてまた再会できますことを心から楽しみにしております。

髙橋　稔・みどり

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

スー先生にはここしばらくお目にかかっておりませんでしたが、以前に先生から頂き、長い間しまっておいたアフリカの民芸品を、この夏に久しぶりに手に取り、見える所に置いて先生のことを思っていたところでした。2007年、ミラノでキリスト者の集いをした時に先生と出会い、スー先生の医師としての働き、特にアフリカの奥地での出産、治療現場での出来事や、ジープに乗り、ジャングルを歩かれた経験談などを伺い、同胞として、働く女性として、そして信仰者として、先生から大きな感動と勇気を頂きました。

その後も、私のことを覚え、気に掛けてくださっていました。先生、ありがとうございました。とてもさみしく思います。先生のように、歳を重ねても情熱を持ち続ける福音のしもべでありたいと思います。

朴有里

ミラノ賛美教会

ブルーリボンの祈り会では、北朝鮮の日本人拉致を同じ国民が犯した罪として謝罪すらされました。（仏フォンテーヌブロー2013）

スー先生ご召天のことをお知らせくださってありがとうございました。本当に寂しいニュースです。日本人への魂の救いのために働かれた長年のご労に、心から感謝します。

先生は、２０１０年のマドリッドでの夏の集いにスウェーデン集会からお一人で参加され、私達マドリッドの小さな群れを励ましてくださいました。小さな体でどこからあのようなパワーがあるのかと思うほど、精力的にアフリカへの医療ボランティアや日本人集会の奉仕をされ、そのお話しをされる顔は輝いていたことを思い出します。

今は、イエス様と共に平安の中で休まれていることでしょう。先生、お疲れ様でした。悲しみの中にいらっしゃるご家族の上に、主の平安と癒しがありますように。

吉川祥永（きっかわ　よしえ）

マドリッド日本語で聖書を読む会

お知らせありがとうございます。来週教職者研修会に来られるとお聞きしていましたので、驚いています。でも今は体の不自由のない、一番自由で豊かなところにおられることでしょう。

遺された方々に慰めがありますよう祈ります。

井野　葉由美

北ドイツJCF

スー先生召天の連絡を有り難うございました。スー先生と初めてお会いしたのは今から１５年程前になるでしょうか？オランダのキリスト者の集いでした。その大会でのテーマは「和解」でした。

日本がオランダ、インドネシア、韓国などに対して行った占領地政策に関する誤りを認め、謝罪し悔い改めを迫るメッセージが何講演も続きました。私は聞いているうちに、簡単に頷く事の出来ない固い心が自分の中にあることを感じていきました。

ある講演の最後に会衆を代表してスー先生が短い祈りを捧げられました。その祈りの中でスー先生が心から「私は韓国人だけれど、日本人を愛している。日本人の愛を私は感じている。」と告白されたのです。その祈りを聞いた私は幼い子供のようにわんわん泣いてしまいました。スー先生の日本人に、いえ、人に対する深い愛情（私にとっては愛される覚えのない愛）が私の固い心を溶かしてしまったからです。その後、すぐにスー先生のところに感謝を伝えに行きました。それ以来、集会でお会いする度にお声をかけさせていただきました。

スー先生とお話しした最後はフォンテーヌブローでの集会でした。集会会場から昼食に向かう道をお供させていただきました。先生の腕をとって歩いた時に先生がお年を召された事を実感し、とても寂しく思いました。まっすぐ歩く事が難しく、私にもたれるように、また離れて行かれるような感じで一緒に歩きました。

スー先生は愛のある言葉で、しかし悪に対して非常に敏感にお話やお祈りをされる先生でした。この地上でもうお会いすることは叶わず、とても寂しいです。でも、スー先生のことを思うと私は心に優しくて、本当に爽やかな神様の御霊の風を感じます。神様にスー先生と会わせてくださった事を感謝致します。

今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会

アフリカでの医療活動　　２００８年

スイスJEGユースグループ

ミニ修養会／お泊まり会レポート

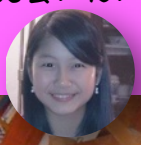
１０月３日～５日お泊り会

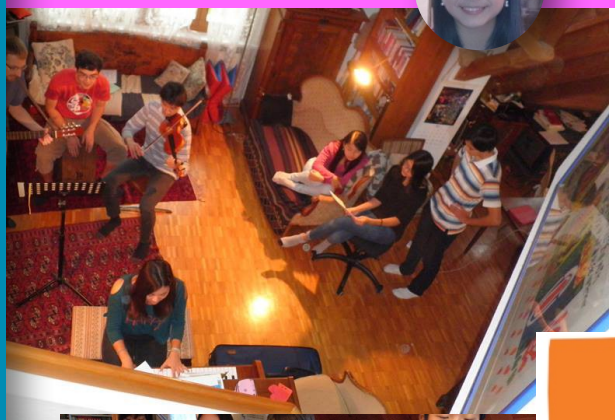
１０月の第一週末にミュンヘンから来た兄弟姉妹とJEGの若者たちでお泊り会をしました。聖書の学び、賛美やゲームなどと、色々楽しみながらすばらしい交わりの時間をすごせました。

10.3-10.5 のトムセン家でのお泊まり会は、とっても楽しかったです！

私は、ユースのみんなの中では一番歳下＆みんなには初めて会ったのに、すごく仲良くしてもらえて嬉しかった。
聖書・お祈りタイム・外でスポーツ・皆でのごはん・ゲーム・きもだめし……
全てが、最高でした！

これからも、こういうお泊まり会を続けてもらえると嬉しいです
またいつか、もう１度みんなに会いたいな ❤
桐藤ひかり





夏のヨーロッパ・キリスト者の集いにおきまして、ＣＳ(子どもプログラム)で奉仕をさせて頂きました。その時参加した子供達、特に信仰の決心をはっきりできた子供達のフォローアップをしたいという願いが与えられていました。ミュンヘンのＹ姉やスイスのトムセン姉、Ｈ姉ともご相談させて頂き、10月3日～5日のドイツの連休を使って、スイスのVolketswilのトムセン兄姉のお宅を会場とさせて頂くことになりました。準備の相談をしておりました9月15日にトムセン姉から、スイスのユースの皆さんがお泊り会と松林兄姉宅を訪ねる計画をしているというお話を聞きました。そして結果的には小学高学年、中高生、ユース合わせて14人のミニ修養会となりました。

3日の夕方に到着しお茶の後、みんなでわいわいと買い物。自己紹介・おしゃべりに花が咲き。4日の午前はＣＳは学びとスキットの練習。ユースはじっくり3時間位の聖研をしました。箇所はユースが選んだ出エジプト記の1～4章でした。お昼は子供達もお料理を手伝ったりして、午後ＣＳはモーセのスキットを発表。子供達の考えたセリフが実におもしろく、演技もなかなか凝っていました。みんなでスポーツで汗を流した後さらに数人のユースが加わり盛り上がりを増して、夕食時には大人を合わせて総勢18人になりました。その後もＣＳでは「星と語ろう(実際には星ではなく飛んでいる飛行機の光を見ながら)」という時間を持ち、試行錯誤ではありましたが、ゲームや交わりでみんなが楽しめたと思います。

ミュンヘンでは普段ＣＳ・ユース共に少人数なので、このような交わりにとても憧れています。今回はミュンヘンから小中学生とユースと私の4人で参加させて頂き、スイス日本語福音キリスト教会の兄姉達に本当にお世話になり、若いパワーに圧倒される時となりました。特にご家庭を解放して下さったトムセン兄姉に感謝で一杯です。

安藤里佳子

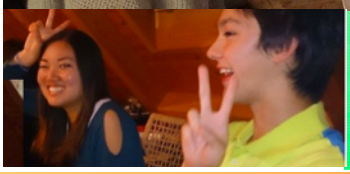
このキャンプは、バイブルスタディー、遊び、お泊りがあって、すごく楽しかったです。久しぶりに聖書勉強をこんなに長い時間をかけてやりました。初めて会ったのに、みんな仲良しになって、絶対またやろうねと言えるようになれて、すごく素敵だと思いました。私は、日本人クリスチャンでヨーロッパに住んでいるという共通点を持つ仲間と交わることの大切さに気付き、これから、そういう集まりを増やしたり、より豊かにしていきたいなと思いました。

安藤みずき

今までのお泊り会での人数を見てみると、今回は新記録でした！ミュンヘンからの友達と楽しい交わりの時間を持てたことにとっても感謝しています。次はミュンヘンに行ったり、また他のヨーロッパでの日本人のクリスチャンと、それかまだクリスチャンになっていない人と一緒に楽しい交わりの時間をすごせたらいいと思います。

トムセン　チャーリー

似顔絵：今村野恵美



2日目の夜遊んだのが楽しかった。
（全員でやったのと、劇の練習）

山口由人

構成；レイアウト
トムセン・チャーリー